



未蓄(みらい)

いつものように、待合室で絵を描いていた。まだ、夢はなかった。

17歳で甲状腺疾患を患った私は、この日も検査で病院にいた。時間だけはあるので、一人で絵を描いていた。すると、なじみの看護師Sさんが声を掛けてくれた。

「上手だね。私にも描いて。クマさんとウサギさん。お願いね」

柔らかい口調の中に芯の強さを感じた。彼女はどのようなつもりで、こんな言葉を発したのだろう。数日後、完成させた絵を彼女に渡すと、お礼と一緒に勘違いにも取れる言葉が返ってきた。

「売ればいいのに。画家になって」
夢みたいなことと生きていけるのか、と思った。しかし、それは生きていくための夢だったのだ。その

言葉により、私の夢は動き出した。

半年後には、あるギャラリーのオーナーの方と縁あって出会い、さらにその半年後には個展開催を成功させることができた。

「売ればいいのに。画家になって」
たった一言のクコトバのパワーを思い知った。「看護」とは、きつとその人の将来のことも責任を持って「見る」ことなのだろう。「見守られている安心感」とは、とてつもなく大きな力に変換される。その2年後には、2回目の個展を開催することができた。そして現在、私は「オーダーマイドの貼り絵やさん」として生きている。

生きていくために「夢をみる」。大切なことを教わった。

彼女は、私にとって「恩師」であり

〈大阪府〉
岡森 おかもり
陽子 ようこ
31歳

「お母さん」であり、そして何より「看護師」だったのだ。

※題名の「未蓄」は、「今はまだ蓄だけれど、たくさんの可能性を秘めている」という意味の造語です。

